



米子市埋蔵文化財センターたより



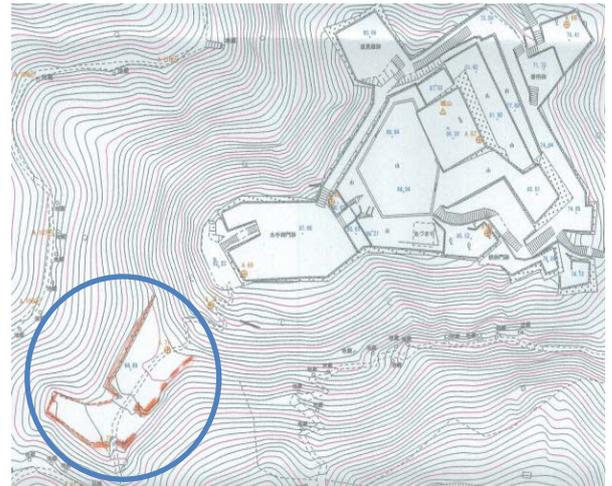
第19号

2015年12月

米子城の謎の解明にむけて その2 - 水手郭下の郭石垣を確認 -



郭の周囲に検出された石垣



調査中の郭の位置

中海から吹き付ける風に凍りつきそうになるこの季節、米子市でおこなっている「米子城跡保存整備事業」に基づく発掘調査も大詰めを迎えております。石垣や郭の確認調査の結果、水手御門下の深浦側に尾根方向に伸びる郭が築かれていたことがわかってきました。現況では樹木がうっそうと生い茂る状態で、石垣もはっきりとは確認できませんでした。今回、下草を伐採し、腐葉土を取り除いたところ、石垣をめぐる上下二段の郭であることがわかりました。石垣は現況ではかなり崩れており、天端石などは失われていましたが、自然石を荒く打ち欠いた割石が積まれていることが確認できました。割石には矢穴の残るものもあります。また、上段の郭の入り口部分には表面にノミ調整を施した大型の加工割石も使用されていることから、見栄えなども考慮して築造されたことが推察されます。さらに、下段の郭は出山方向にL字状に屈曲しており、その間には出山方向からの入り口と思われる坂道が確認できました。

この郭について絵図を調べてみたところ、鳥取県立博物館所蔵の「米子御城明細図」[元文4(1739)年]に平面図で描かれていることがわかりました。絵図の水手御門の下方には石垣をめぐる二段の郭が描かれており、平面形も現況と整合することがわかりました。入り口部分には「上り段」との記載もあり、階段状の横線が三本描かれていることから、現況では坂道になっている部分に石段が残っている可能性もあります。

深浦側に延びた下段の郭にたたずむと、現在でも樹木の間から陽光にきらめく中海が深浦側も含めて一望できます。湊山の縄張上でも中海に張り出したこの郭は、非常に重要な防衛拠点だったと考えられます(濱野)。

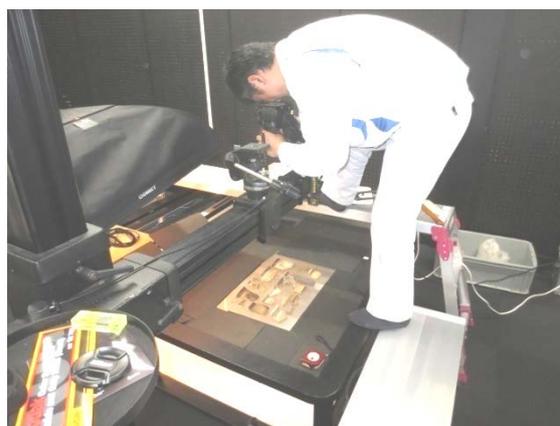
整 理 作 業 情 報

－坂長ブジラ遺跡の整理作業－

整理室では平成 24 年に実施した伯耆町坂長の「坂長ブジラ遺跡」「坂長尻田平遺跡」発掘調査の整理と報告書作成作業を進めています。「坂長ブジラ遺跡」からは、弥生時代から江戸時代にかけての土坑や掘立柱建物跡や河川跡が発見され、特に河川跡からは多数の土器が検出されており、整理作業に手間取りました。「坂長尻田平遺跡」からは古墳時代から明治時代にかけての土坑や水路が発見されています。なかでも平安時代の土師器は山陰の地域性のある興味深い資料です。



弥生式土器



遺物写真撮影

整 理 室 た よ り

米子市立山陰歴史館収蔵考古資料の整理② 赤碕の「泥塔」

この資料は米子市立山陰歴史館収蔵の考古資料で、宝塔の形をした粘土板です。高さ 6 cm、幅 2.5 cm、厚さ 1 cm の小さいもので、31 点あります。

型に入れて作られており、塔身に梵字が陽刻され、基礎部分にはへら書の経文が一字刻まれています。

刻まれた経文は法華経の一字と考えられ、多数の人の結縁で極楽往生や現世利益などを祈願して、一字ずつ書いて奉納されたものと思われます。

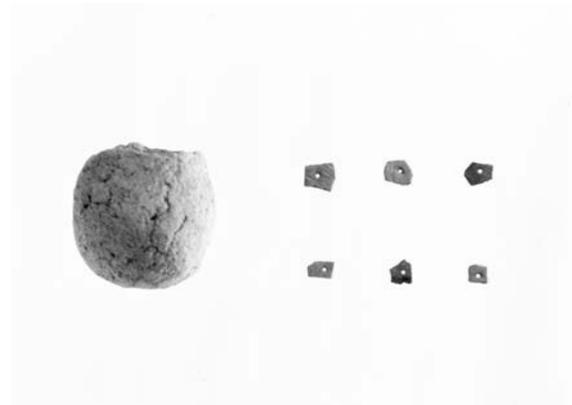
作られた時期は室町時代から近世の間と考えられる泥塔です。



山陰歴史館収蔵の赤碕の「泥塔」

米子市街地から東7kmの大山西麓の大谷台地上の百塚原の丘陵には、主に弥生時代から古墳時代の集落跡の百塚第1遺跡から第8遺跡が知られています。平岡上向山遺跡は、百塚第3遺跡の東側に位置しています。

この遺跡は、2008年11月に県道赤松淀江線の改築工事に伴って発掘調査されました。調査の結果、弥生時代後期から古墳時代中期の竪穴建物跡1棟、掘立柱建物跡1棟、土坑2基などと共に縄文土器、土師器、須恵器、玉未製品が出土しました。掘立柱建物跡の柱穴内から直径5cmの小さい手づくね土器が検出され、土器内部から滑石製の玉の未製品が6点検出され注目されました。土器内に玉をいれて、地鎮具として柱穴内に埋めたと考えられています。(小原)



手づくね土器と滑石の玉

コラムー奈良時代を掘る③

陰田広畑遺跡は、米子市陰田を起点とする国道180号道路改良工事伴って1992年～1994年に発掘調査されました。

遺跡は奥陰田の標高45～20mの尾根から谷斜面に大小10以上のテラス状の段が造成され、そこに掘立柱建物や竪穴建物が発見されました。この内、幅10m、長さ60mの大規模な第6テラスには大小の掘立柱建物跡群があり、鍛冶炉や焼土面が検出されました。また、遺物に土師器、須恵器の他に鉄滓、フイゴの羽口、円面硯、墨書土器などが出土していることから古墳時代後期から奈良・平安時代にかけて営まれた鍛冶工房の村であったと考えられます。

ー 陰田広畑遺跡 ー



上 テラスの掘立柱建物跡 下 鍛冶炉

センター・資料館日誌

10月6日 元興寺・狭川氏が仏教遺物の借用で来館された。

10月4日 考古学教室第2回「古代の玉を学ぶ」を埋蔵文化財センターで開催した。



福市考古資料館で玉を学ぶ

10月7日 「鳥取史跡と考古の旅」団体が来館し展示・史跡解説を実施した。

10月8日 「明治大学博物館友の会」団体が来館し展示・史跡解説を実施した。

10月22日 「津山市中央公民館」団体が来館し展示・史跡解説を実施した。
高知県埋文センター職員が博労町資料の調査で来館された。

10月28日 鳥取県立博物館・酒井氏が東宗像遺跡資料の借用で来館された。

11月3日 米子信金ウォークが福市遺跡公園をゴールとして来園された。

11月8日 考古学講座第2回「石塔物語」を埋蔵文化財センターで開催した。



講座風景

11月16日 元興寺・佐藤氏が仏教遺物の返却で来館された。

11月18日 鳥取県立博物館・大嶋氏が戦争遺物の焼夷弾資料の借用で来館された。

11月27日 古代出雲歴史博物館・中川氏が土笛資料の借用で来館された。

11月30日 福市考古資料館特別展「古代の玉」の展示が終了した。

12月6日 考古学教室第3回「石器に触れて学ぶ」を埋文センターで開催した。

12月11日 福井県坂井市教育委員会の青山氏が、早期縄文土器の鑑定指導に来館された。

12月13日 佐伯主任が出雲弥生の森博物館の講座講師として「米子地方の戦争遺跡」の講演を行った。

12月21日 古代出雲博物館の松尾氏が資料の返却で来館された。

12月28日 仕事納め

編集後記

大山はすっかり冬景色となりました。2015年もあっという間に年末となりました。

今年は発掘現場がありませんでしたが、あわただしく時が過ぎていった感があります。

新しい年が良い年になるように願ってやみません。

発行日 平成27年12月22日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者（一財）米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp